阪南町埋蔵文化財報告Ⅶ

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要Ⅲ

1989年3月

阪南町教育委員会

はしがき

今日様々な開発がこの阪南町内においても行われており、それらにともなう埋蔵文化財の調査件数も増加しています。教育委員会では、こうした開発行為の事前に発掘調査を実施し、記録保存を行ってきました。とりわけ今年度は、開発行為の増加の他、遺跡が新たに周知された事等の理由により、国庫補助事業としての発掘調査件数も倍増しました。

今年度は、従来より周知されていた田山遺跡、神光寺（蓮池）遺跡をはじめとして、新たに周知された向出遺跡、馬川遺跡などで発掘調査を実施しました。なかでも向出遺跡は、昨年度に実施しました分布調査により、多数の石鏃が採集されていた地域で、その当時における集落等の存在が予想されていました。しかし今回の発掘調査では、主に中世から近世にかけての遺物が検出されたにとどまり、石鏃にともなう遺物、遺構は検出されませんでした。

ここに今年度の調査成果の報告を行います。小規模な調査ばかりではありますが、こうした調査の積み重ねにより、埋蔵文化財の存在、詳細が解明されることになります。つきましては、一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました土地所有者ならびに関係者の方々に深く感謝いたします。

平成元年３月

阪南町教育委員会
教育長　庄　司　菊太郎

例　　言

1．本書は、阪南町教育委員会が昭和63年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南町内所在埋蔵文化財包蔵地の発掘調査概要報告書である。

2．調査は、阪南町教育委員会社会教育課三好義三を担当者とし、昭和63年４月１日に着手し、平成元年３月31日に終了した。

3．調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

4．本書の編集および執筆は、調査参加者及び三好が行った。

5．本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。阪南町教育委員会で保管しているので、広く活用されることを希望する。

目　　次

1章	調査に至る経過	1
2章	歴史的環境	1
3章	調査成果	
1節	田山遺跡	3
2節	平野寺（長楽寺）跡	9
3節	馬川遺跡	10
4節	向出遺跡	13
4章	ま と め	18

図　版　目　次

図版1	田山遺跡88－1区　調査区全景・出土遺物
図版2	田山遺跡88－2区　Aトレンチ全景・Bトレンチ全景
図版3	田山遺跡88－2区　出土遺物・平野寺（長楽寺）跡　調査区全景
図版4	馬川遺跡88－2区　Aトレンチ全景・遺構
図版5	馬川遺跡88－2区　Bトレンチ全景・出土遺物
図版6	向出遺跡88－3区　調査区全景・遺構
図版7	向出遺跡88－3区　出土遺物・向出遺跡88－6区　調査区全景

挿　図　目　次

第1図	阪南町内埋蔵文化財包蔵地分布地図	2
第2図	田山遺跡　調査区位置図	3
第3図	田山遺跡　88－1区　トレンチ位置図	4
第4図	田山遺跡　88－1区　トレンチ平面図・北側断面図	4
第5図	田山遺跡　88－1区　出土遺物	5
第6図	田山遺跡　88－2区　トレンチ位置図	6
第7図	田山遺跡　88－2区　Bトレンチ平面図・東側断面図	6
第8図	田山遺跡　88－2区　Aトレンチ平面図・北側断面図	7
第9図	田山遺跡　88－2区　出土遺物	8
第10図	平野寺（長楽寺）跡　88－1区　トレンチ東側断面図	9
第11図	平野寺（長楽寺）跡　調査区位置図	9
第12図	馬川遺跡　調査区位置図	10
第13図	馬川遺跡　88－2区　トレンチ位置図	11
第14図	馬川遺跡　88－2区　Aトレンチ平面図・断面図	11
第15図	馬川遺跡　88－2区　出土遺物	12
第16図	馬川遺跡　88－2区　出土遺物	12
第17図	向出遺跡　88－3区　トレンチ位置図	13
第18図	向出遺跡　調査区位置図	13
第19図	向出遺跡　88－3区　トレンチ平面図・断面図	14
第20図	向出遺跡　88－3区　出土遺物	15
第21図	向出遺跡　88－3区　出土遺物	16
第22図	向出遺跡　88－6区　トレンチ位置図	16
第23図	向出遺跡　88－6区　トレンチ平面図・北側断面図	17
第24図	向出遺跡　88－6区　出土遺物	17

第１章　調査に至る経過

阪南町はその位置的性格から、近年大阪のベッドタウンとして開発されてきた地域である。またそれに加え、関西新空港建設という最大級プロジェクトの進行に伴う開発行為も急激に増えている。これらの開発行為に伴い、阪南町教育委員会では、埋蔵文化財の保存ならびに保護活用を図るため、様々な埋蔵文化財の発掘調査を実施している。

今年度は従来の遺跡に加え、新たに向出遺跡、馬川遺跡等が周知され、阪南町内の遺跡数は50ケ所をこえるに至った。また埋蔵文化財包蔵地内での土木工事による発掘件数は約50件にのぼり、田山遺跡、平野寺（長楽寺）跡、向出遺跡、馬川遺跡、自然田遺跡等での調査を実施した。

（和田）

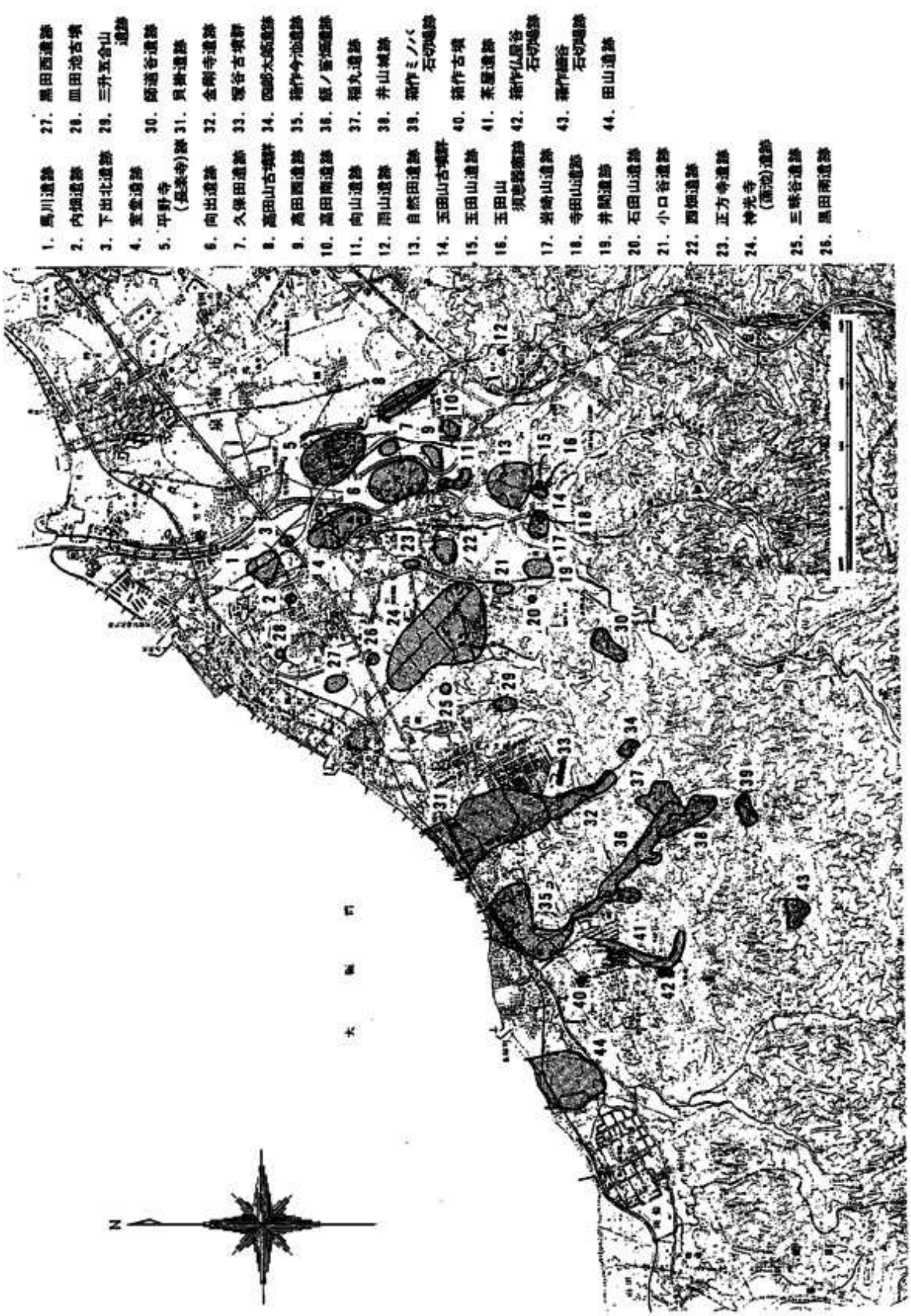
第２章　歴史的環境

現在、阪南町では約50カ所の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。

旧石器時代の遺跡としては、神光寺（蓮池）遺跡がある。同時代の明確な遺構・遺物は検出されていないが、遺跡内で後期旧石器時代に属する有舌尖頭器が採集されている。縄文時代では、玉田山遺跡等で石鏃等が採集されているが遺構は未検出である。弥生時代では、神光寺（蓮池）遺跡で方形周溝墓が検出されている。古墳時代としては、玉田山古墳群がよく知られているところである。歴史時代になると、ほとんどの遺跡で遺物が検出される。特異な遺跡としては、箱作ミノバ石切場跡、細谷石切場跡が存在する。前者は、先年大規模な発掘調査が実施され、和泉砂岩の石切り場跡、加工場跡として知られている。貝掛遺跡、金剛寺遺跡では近世期の集落跡が検出され、文献上で残されていた村が確認された。

以上が阪南町内における埋蔵文化財についての概要である。以下の章では、今年度の調査成果を報告する。昨年実施した分布調査等により周知された遺跡では、その調査によって得られた結果とほぼ同様の資料が検出され、分布調査の重要性を再認識させられた。

（三好）



第１図　阪南町内埋蔵文化財包蔵地分布地図

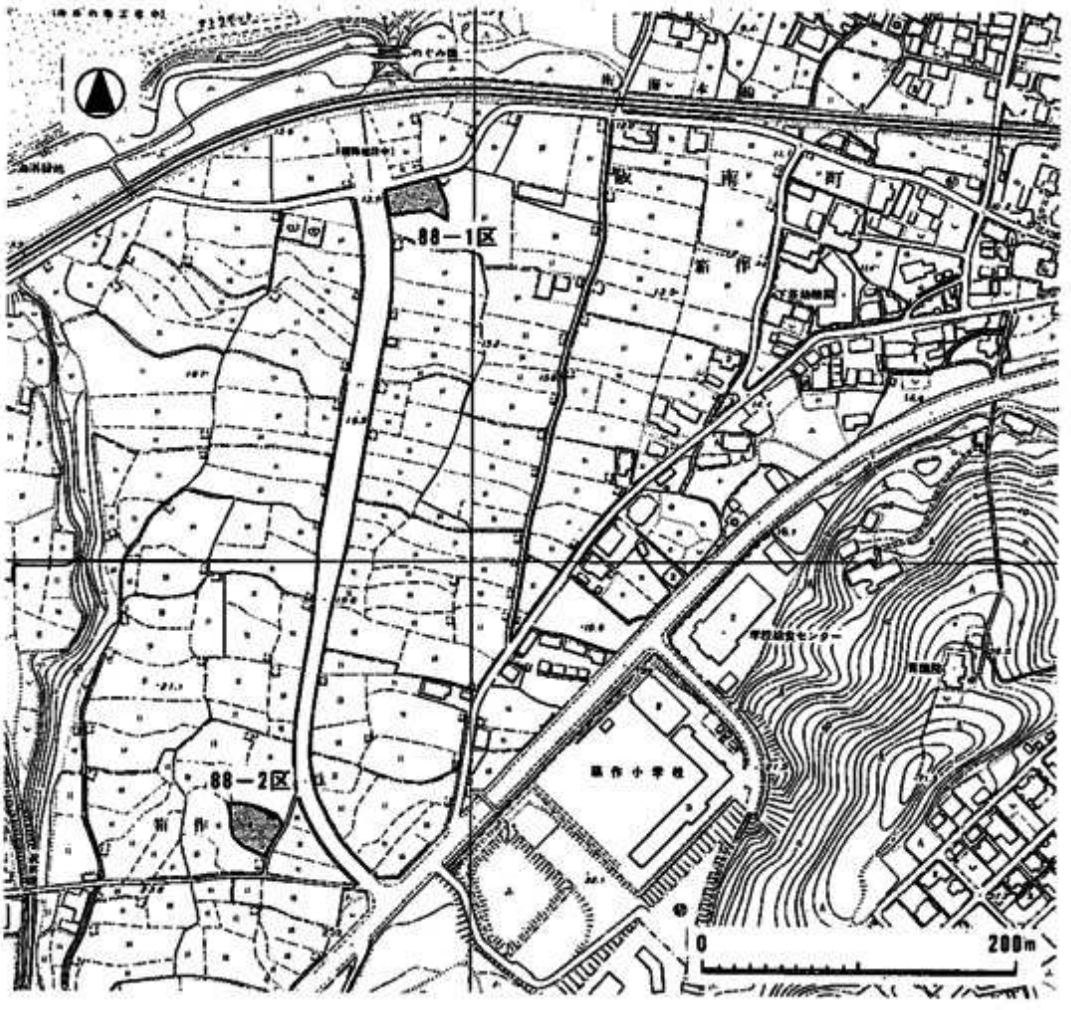
第３章　調査成果

１節　田山遺跡

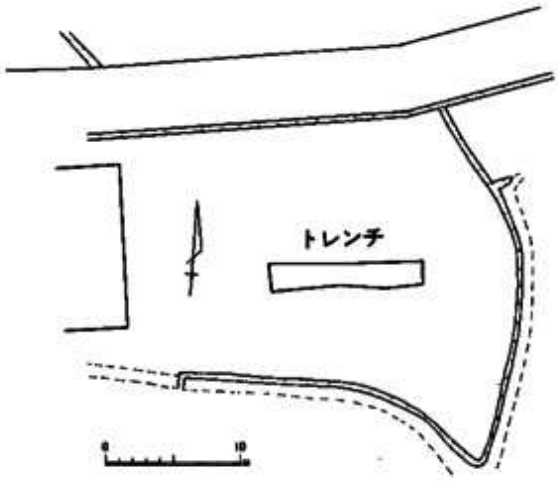
８８－１区

１．位置および調査の概略（第２・３・４図、図版１）

田山遺跡は、㈶大阪府文化財センターが箱作海水浴場の進入路設置に先行して実施した調査により確認された遺跡である。これまでの調査では、縄文時代から近世期に至る遺物や遺構が検出され、農耕、漁労の二面性をもつ集落の存在が周知されている。調査は調査区の中央に２ｍ×11ｍのトレンチを設定し、盛土を機械で除去した後、人力で掘削をおこなった。



第２図　田山遺跡 調査区位置図

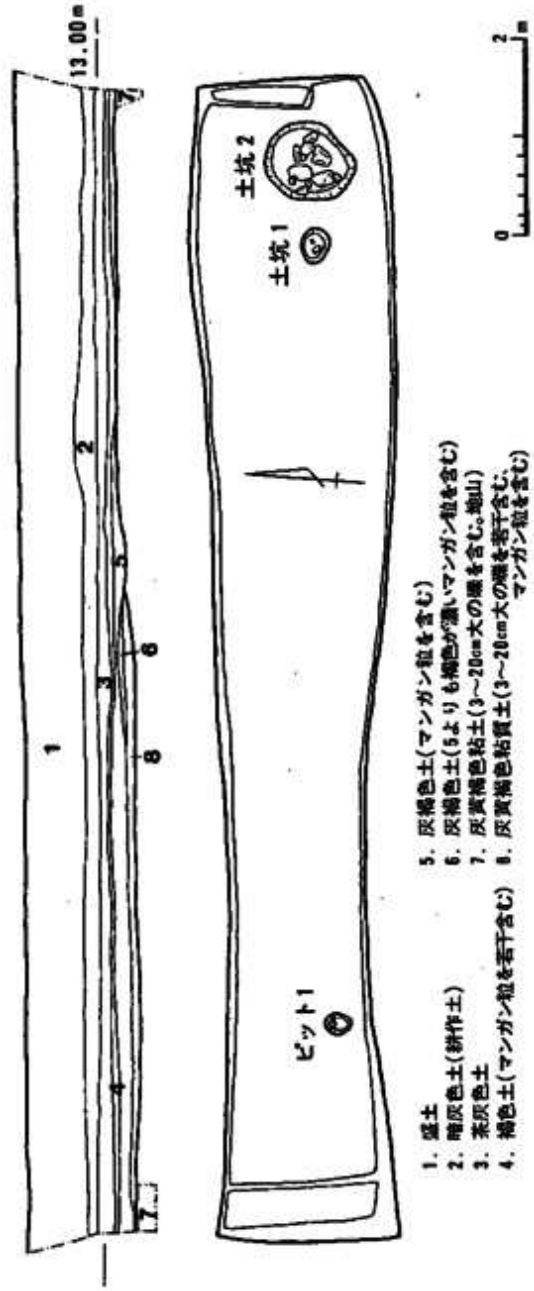


第３図　田山遺跡88-1区　トレンチ位置図

人為的な盛土以下の基本的な層序は、第１層暗灰色土（耕作土）、第２層茶灰色土、第３層褐色土、第４層灰褐色土、第５層灰黄褐色粘質土、第６層灰黄灰色粘土である。第６層はいわゆる地山で、無遺物層である。第３・４層にはマンガン粒が含まれていた。第２・４５層より土師器、須恵器、瓦器等の破片が検出された。

２．遺構（第４図）

トレンチの東西両端、第６層上面でピット、土坑２ケ所を検出した。



第４図　田山遺跡88-1区　トレンチ平面図・北側断面図

ピット１

径約0.2m、深さ約0.35mを呈しており、その北端に径約0.1m、深さ約0.04mの柱痕を検出した。埋土は第４層灰褐色土である。遺物は検出されなかった。

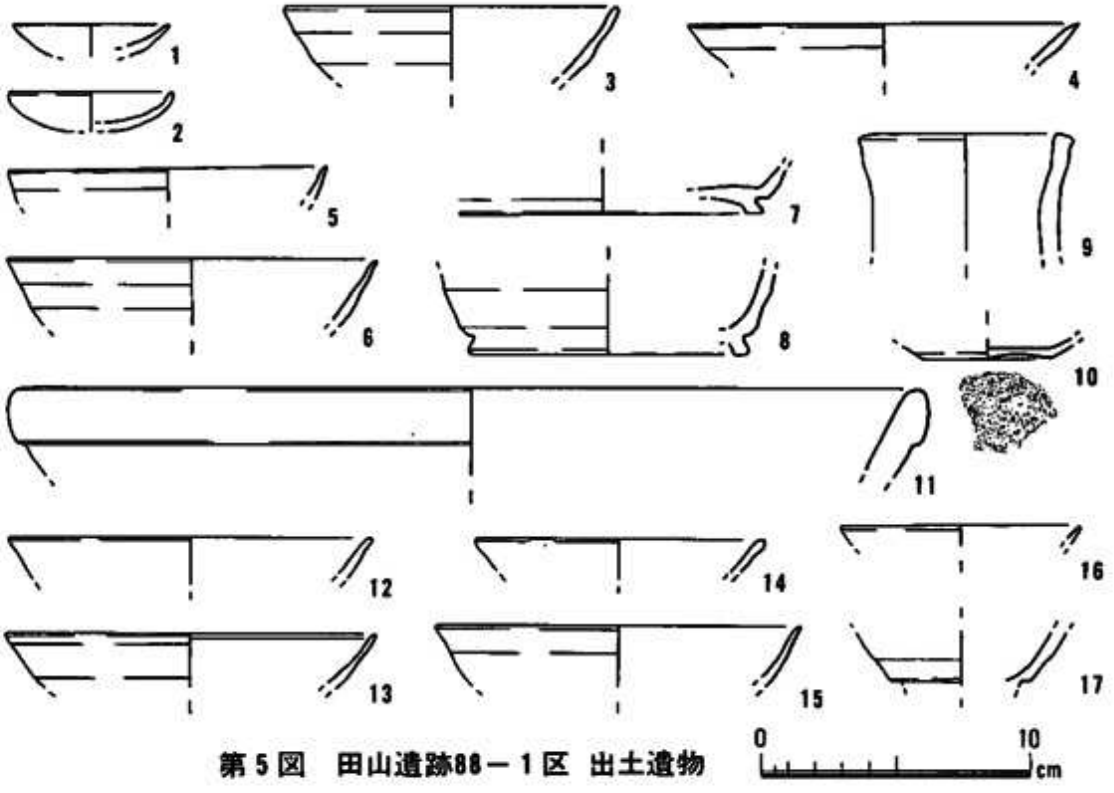
土坑１

径約0.35m、深さ約0.6mを測る。埋土は第４層灰褐色土である。遺物は検

出されなかった。

土坑2

径約0.9m、深さ約0.7mを測る。埋土は土坑1と同じく第4層灰褐色土である。遺物は検出されなかった。　（西畑）



第5図　田山遺跡88－1区　出土遺物

3．遺物（第5図、図版1）

1、2は土師質の小皿である。3、4は土師器・土師質の椀で3の内面にはヨコナデが施されている。5、6は須恵器坏の口縁部。7、8は須恵器坏の高台部である。高台は貼り付けによるものと思われ、ともに内外面にヨコナデが施されている。9、10は須恵器の壷と思われ、どちらも内外面にヨコナデが施されている。10の底部には回転による糸切り痕がみられる。11は瓦質の鉢である。12～16は瓦器の椀。13の外面および14の内外面にはヨコナデ調整がみとめられる。17は瀬戸美濃系の天目碗の高台部である。高台上部まで釉が施されている。

（井上）

８８－２区

１．位置および調査の概略

（第２・６・７・８図、図版２）

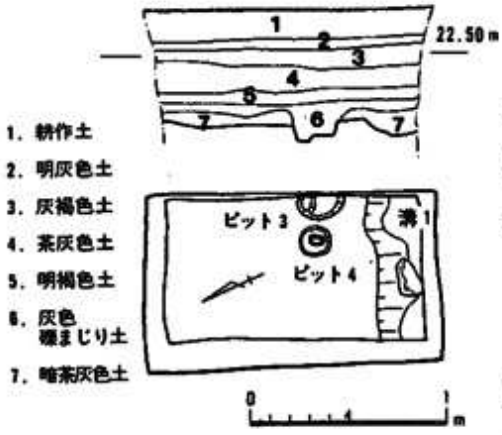
本調査区は個人住宅建設に先立つ事前調査である。田山遺跡の南端に位置する。調査区の北東部に2ｍ×8ｍのＡトレンチと、その北西方向に1ｍ×1.5mのＢトレンチを設定し、人力で掘削をおこなった。

第６図　田山遺跡88-2区　トレンチ位置図

基本的な層序は、Ａトレンチにおいては第１層耕作土、第２層明灰色土、第３層灰褐色土、第４層茶灰色土、第５層灰色礫まじり土、第６層黄灰色粘土（地山）と続く。Ｂトレンチにおいてもトレンチとほぼ同じ堆積状況であるが、第４層と第５層の間に明褐色土層が入り込み、第５層と第６層の間に暗茶灰色土層がみられた。Ａトレンチ第３・４層より土師器、須恵器、瓦器片、５層より土師器、須恵器片、Ｂトレンチより土師器、須恵器、瓦器片が検出された。

２．遺構（第７図・８図）

Ａトレンチにおいて、第６層上面でピット２ケ所と土坑１ケ所を検出した。



第７図　田山遺跡88－２区
Ｂトレンチ平面図・東側断面図

ピット１

トレンチ西端に位置し、径約0.3m、深さ約0.04mの円形を呈する。内部に径約0.2m、深さ約0.02mの柱痕を有する。埋土は第５層灰色礫まじり土である。遺物は検出されなかった。

ピット２

トレンチ南東端に位置し、径約0.35m、深さ約0.08mを呈する。内部に径約0.1m、深さ約0.1mの柱痕を有する。埋土は第５層灰色礫まじり土である。遺物は検出されなかった。

土坑1

トレンチ中央部に位置し、東西約0.3m、南北約0.6m、深さ約0.08mを測る。埋土は第5層灰色礫まじり土である。遺物は検出されなかった。

一方、Bトレンチでは、第6層上面において、ピット2ケ所、溝1ケ所を検出した。

ピット3

東側断面により全様は明らかではないが、径約0.2m深さ約0.08mを測る。内側に径約0.1m、深さ約0.08mの半月形の柱痕を有する。埋土は第5層灰色礫まじり土。遺物は検出されなかった。

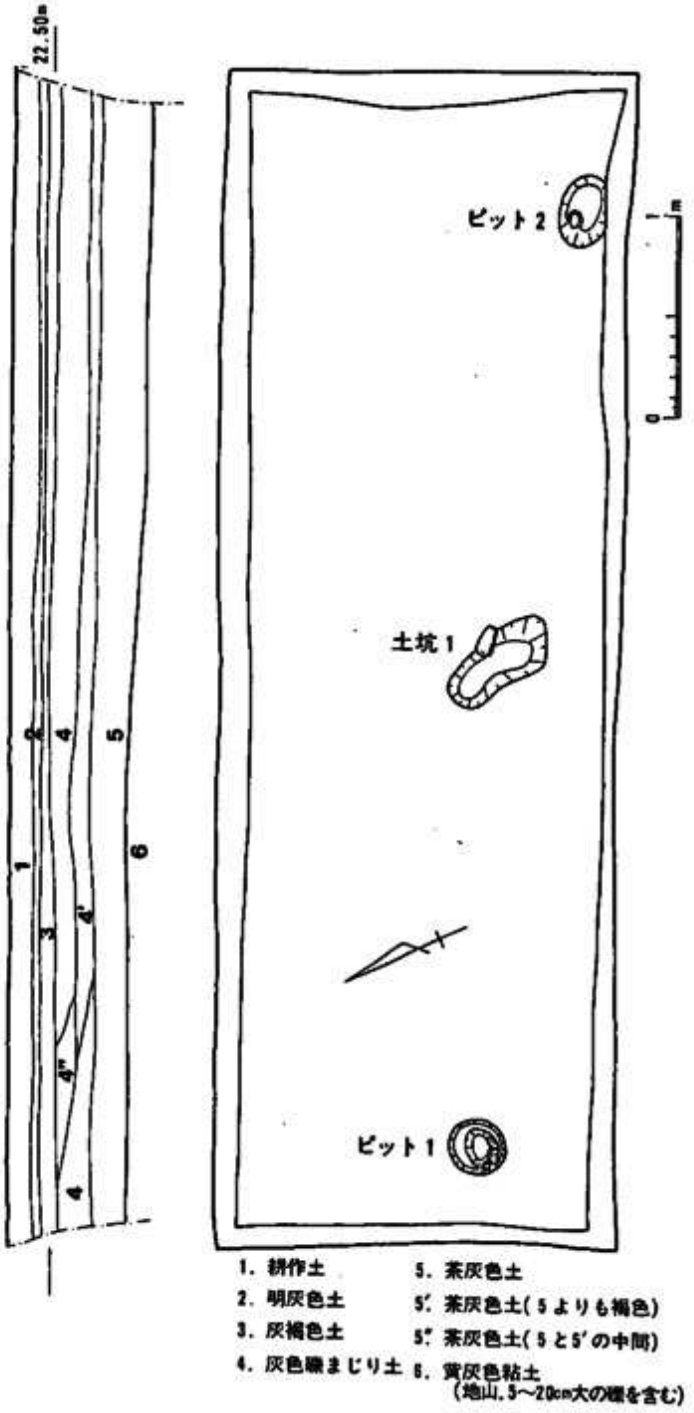
ピット4

ピット3の東側0.04mに位置し、径約0.15m、深さ約0.06mを測る。内部に径約0.08m、深さ約0.02mの柱痕を有する。埋土は第5層灰色礫まじり土。遺物は検出されなかった。

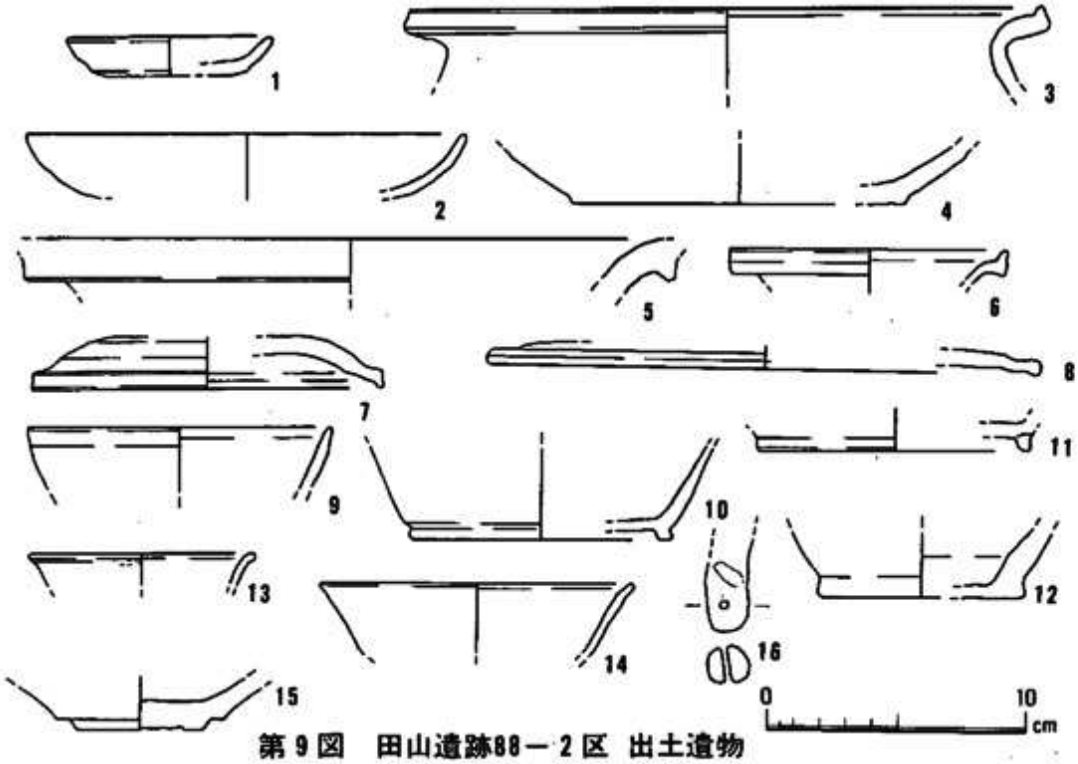
溝1

トレンチ南端を東西に流れる。深さ約0.1m。調査区に制限があるため明確ではないが、幅は0.3m以上である。埋土は暗茶灰色土。遺物は検出されなかった。

（西畑）



第8図　田山遺跡88－2区
Aトレンチ平面図・北側断面図



第９図　田山遺跡88－２区　出土遺物

３　遺物（第９図、図版３）

１、２は土師器・土師質の皿である。３、４は土師質壷の口縁部と底部と思われる。４の内面にはヨコナデ調整がみられる。５は須恵器の壷の口縁部と底部と思われ、外面にはヨコナデが施され、内面には自然釉がみられる。６は須恵器の長頸壷の口縁部と思われ、内外面にヨコナデ調整と自然釉がみられる。７、８は須恵器の坏蓋である。ともに内外面にヨコナデが施されている。９～11は須恵器の坏の口縁部と高台部である。９、10の内外面にはヨコナデが施されている。11の高台は貼り付けによるものである。12は須恵器の壷の底部と思われる。内面にはヨコナデが施され、外面および底部には自然釉がみられる。底部には回転による糸切り痕がみられる。13は施釉陶器の口縁部で、淡茶白色の釉が施されている。14は磁器の碗と思われるもので、内外面に灰白色の釉が施されている。口縁部内側の釉はふき取られている。15は瀬戸美濃系の皿あるいは碗と思われる高台部で、外面は露胎しているが、内面には灰緑色の釉が施されている。高台は回転削り出しによる。16は土師質の有孔土錘と呼ばれる漁網用の土錘である。（井上）

2節　平野寺（長楽寺）跡

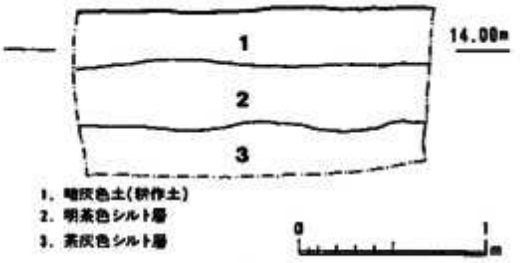
88－1区

1．位置および調査の概略（第10・11図、図版3）

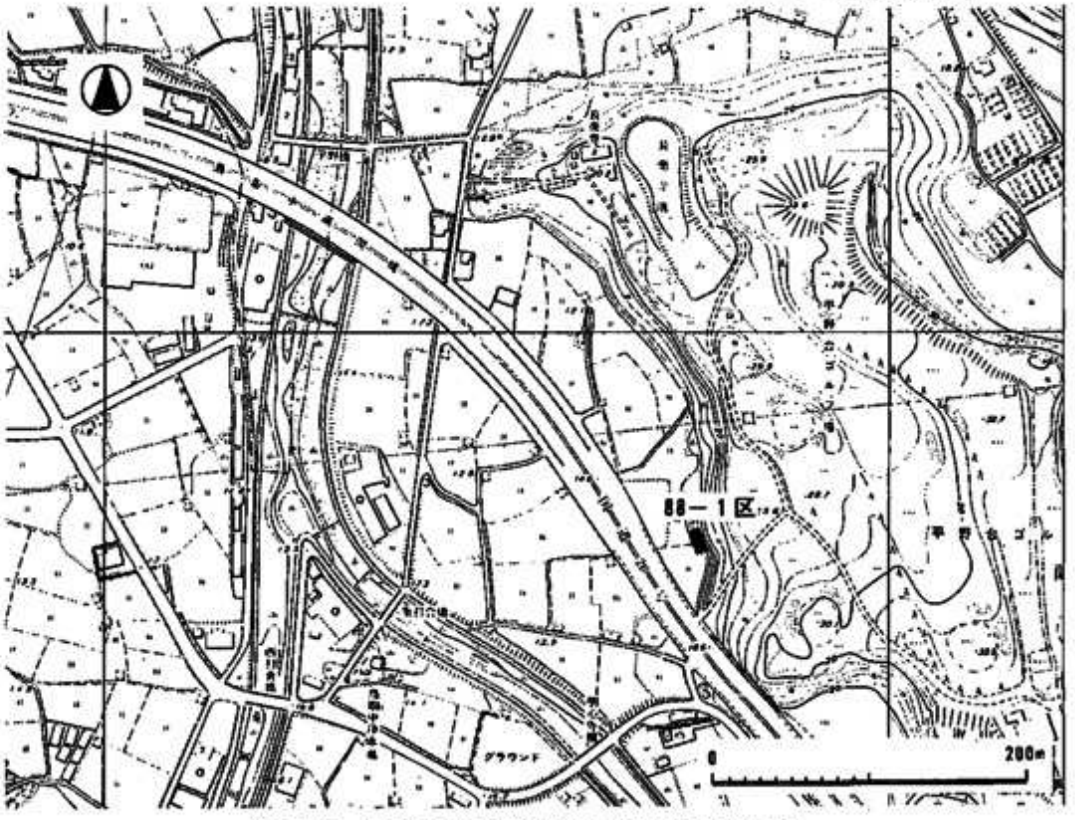
平野寺は、苑砥、山中、金熊寺川が合流する平野山に存在した。寺伝では、行基菩薩の開創とされている。以前に付近より平安時代後期のものと思われる瓦が出土している。

今回の調査は、個人の倉庫建設に伴うもので、調査地区は平野寺（長楽寺）跡の南西部に位置する。調査は、0.5m×2mのトレンチを設定し、人力で掘削をおこなった。耕作土以下の層序は、明茶色土、茶灰色土、黄褐色土（地山）であった。遺構は検出されなかった。耕作土中より陶磁器片等が出土したが、図示し得るものは、みられなかった。

（西畑）



第10図　平野寺(長楽寺)跡88－1区 トレンチ東側断面図



第11図　平野寺(長楽寺)跡 調査区位置図

3節　馬川遺跡

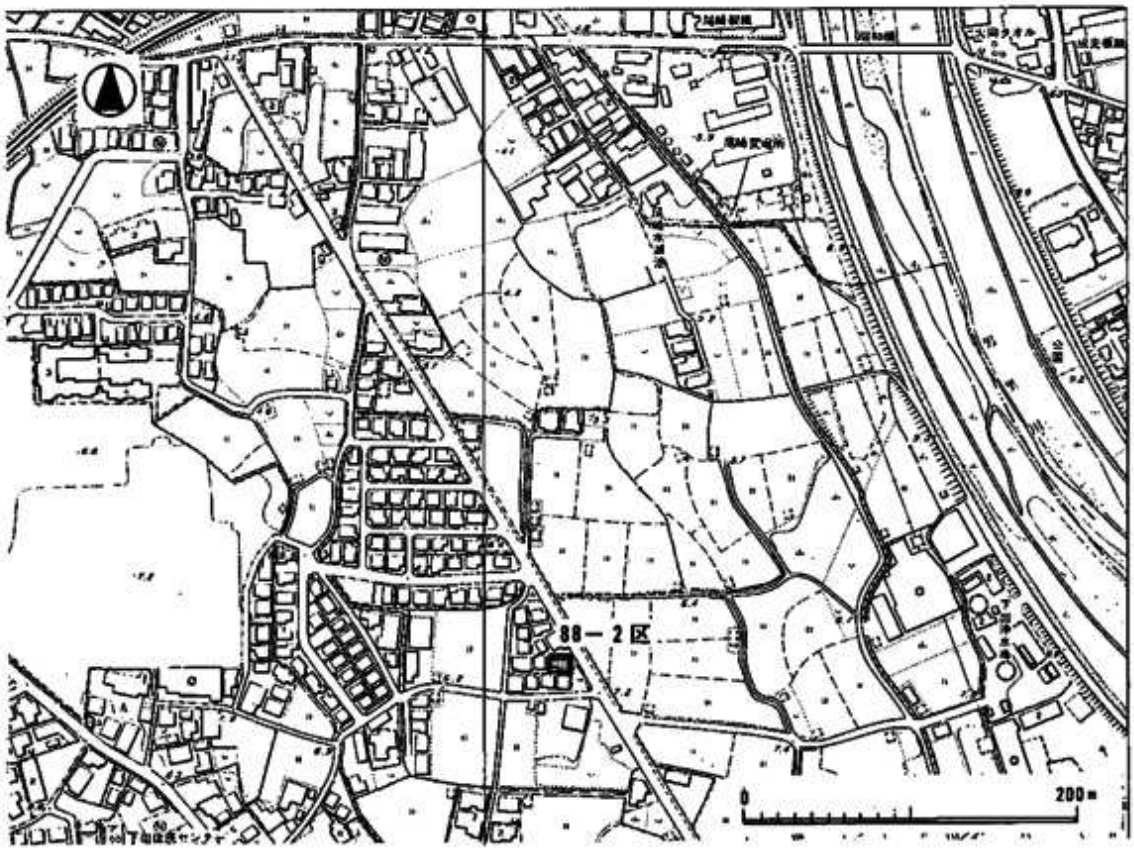
88－2区

1．位置および調査の概略（第12・13・14図、図版4・5）

馬川遺跡は、昭和62年度より実施された分布調査により新たに周知された遺跡である。東方に男里川が流れ、本遺跡は、この砂洲である低地部と段丘部分とにまたがっている。

今回の調査は、個人住宅建設に伴う事前調査である。調査区は、本遺跡の南部に位置する。調査区に、1.5m×6mと2m×3.5mの2本のトレンチを設定し、人力で掘削をおこなった。前者をAトレンチ、後者をBトレンチとした。

盛土以下の基本的な、層序は、第一層暗灰色土層（耕作土）、第2層茶灰色土層、第3層黄茶色土層、第4層暗茶色土層、第5層暗茶灰色土層、第6層茶色シルト層（地山）であった。Aトレンチ内の包含層から、土師器、須恵器、



第12図　馬川遺跡調査区位置図

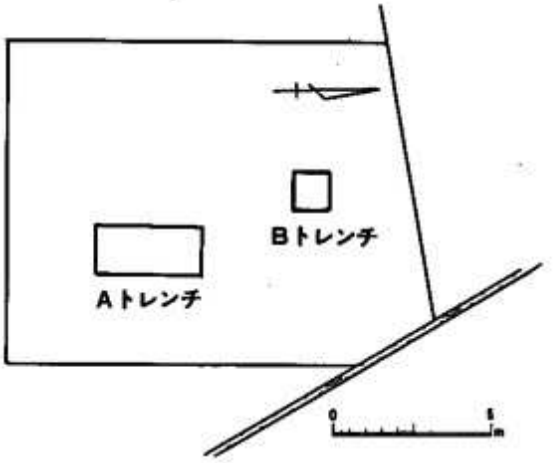
サヌカイト片、陶磁器片が出土した。

3．遺構（第14図、図版４）

Ａトレンチ内第６層上面において２条の溝とピット１ケ所を検出した。

溝　1

Ａトレンチ北端をほぼ南北に流れる溝である。幅約0.7～0.8m、深さ約0.4mを測る。含土は、第５層暗茶灰色土等であり、土師器片が検出された。



第13図　馬川遺跡88－２区 トレンチ位置図

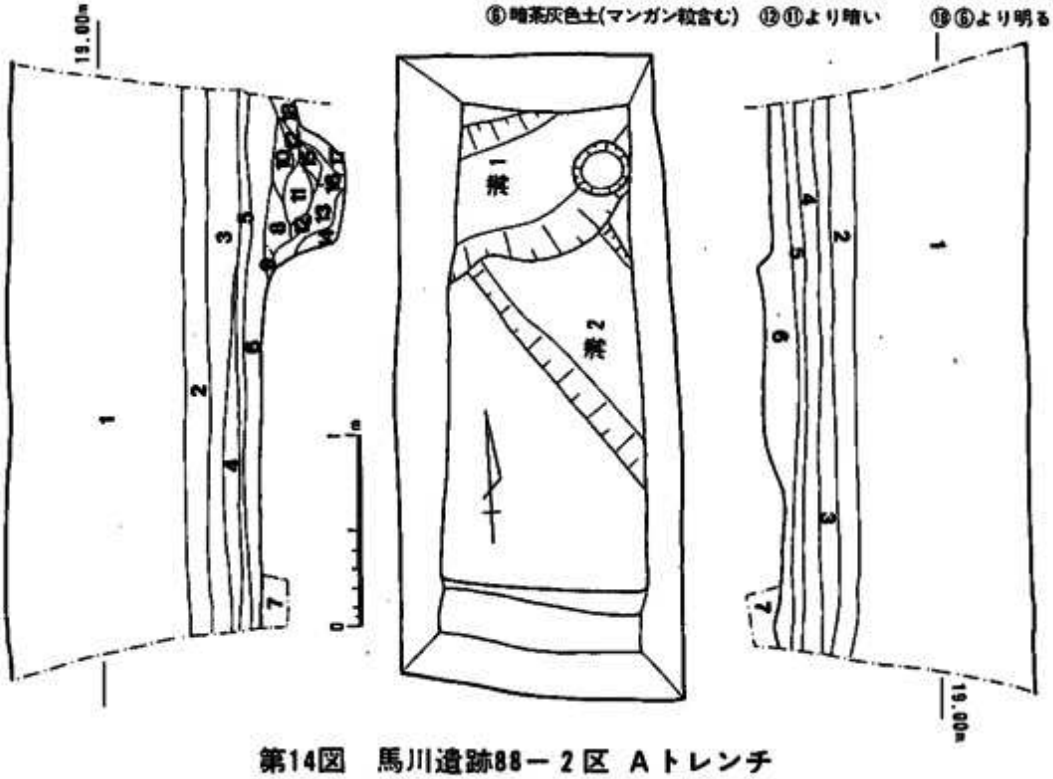
溝　2

溝１に切られている溝である。幅約0.8m、深さ約0.1～0.13mを測り、含土は、第５層暗茶灰色土であった。

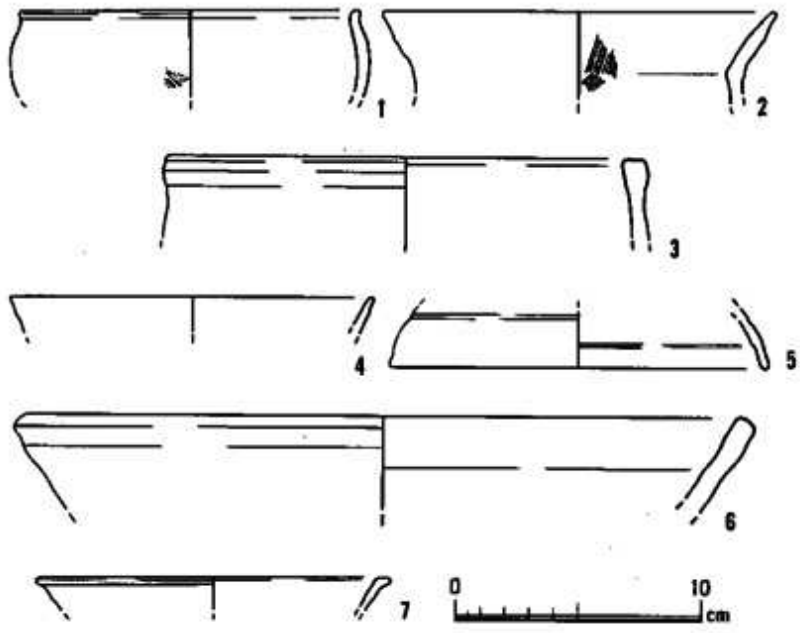
ピット

径約0.3m、深さ約0.06mを測る。

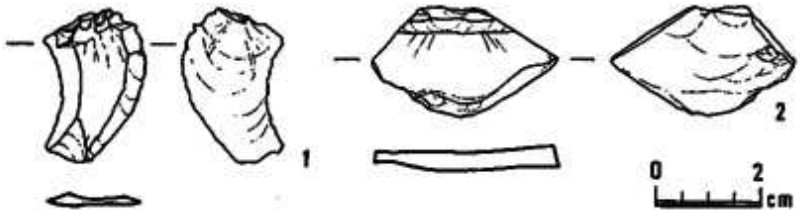
①盛土
②暗灰色土(耕作土)
③茶灰色土
④黄茶色土
⑤暗茶色土(マンガン粒含む)
⑥暗茶灰色土(マンガン粒含む)
⑦茶色シルト
⑧⑥より暗い
⑨⑥より灰色強い
⑩⑥より茶色強い
⑪暗茶褐色土
⑫⑪より暗い
⑬⑪より茶色強い
⑭暗黄茶色土
⑮⑪より褐色強い
⑯⑪より褐色強く粒子粗い
⑰⑭より暗い
⑱⑥より明るい



第14図　馬川遺跡88－２区 Ａトレンチ
平面図・断面図



第15図　馬川遺跡88－２区　出土遺物



第16図　馬川遺跡88－２区　出土遺物

４．遺物

－土器（第15図、図版５）

１は土師質の鉢と思われる。内面にはハケ目調整、体部外面には櫛描きと思われる線文が施されているが単位は不明である。

２は土師器の小型甕と思われる。体部内面にハケ目調整が施されている。３は土師質の壷の口縁部と思われる。口縁部にヨコナデがみられる。４は須恵器の坏で外面にヨコナデがみられる。５は須恵器の坏蓋であるが稜は短かくほとんど形をとどめていない。６は東播系と思われる須恵質の捏鉢である。口縁部に稜のないものである。内外面にヨコナデが施され、口縁部に自然釉がみられる。７は磁器の碗、あるいは皿の口縁部である。内外面に灰白色の釉がうすく施されており全体に貫入がはいっている。体部内面には、沈線がめぐっている。

－石器（第16図、図版５）

１、２ともにサヌカイトの剥片である。１は縦長剥片であり、縦2.9cm、横1.9cm、厚さ0.25cmをはかる。２は横長剥片である。縦2.05cm、横3.55cm、厚さ0.4cmをはかる。なお、この馬川遺跡では、他の調査区においてもサヌカイト片が多数検出されている。

（井上）

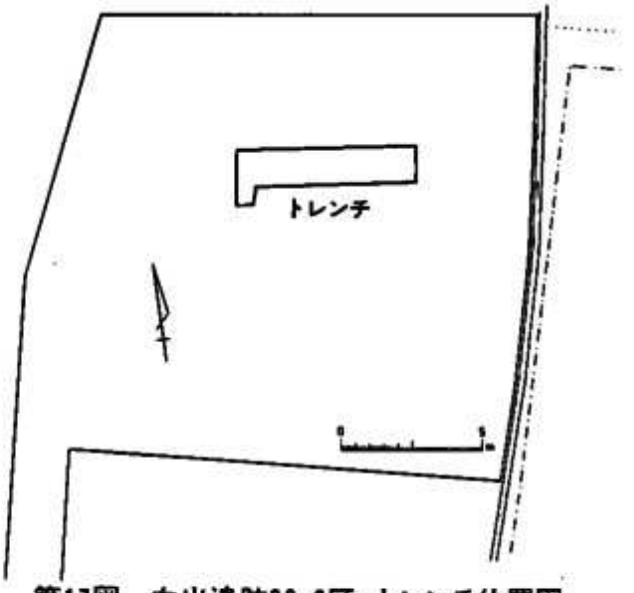
4節　向出遺跡

88－3区

1．位置および調査の概略

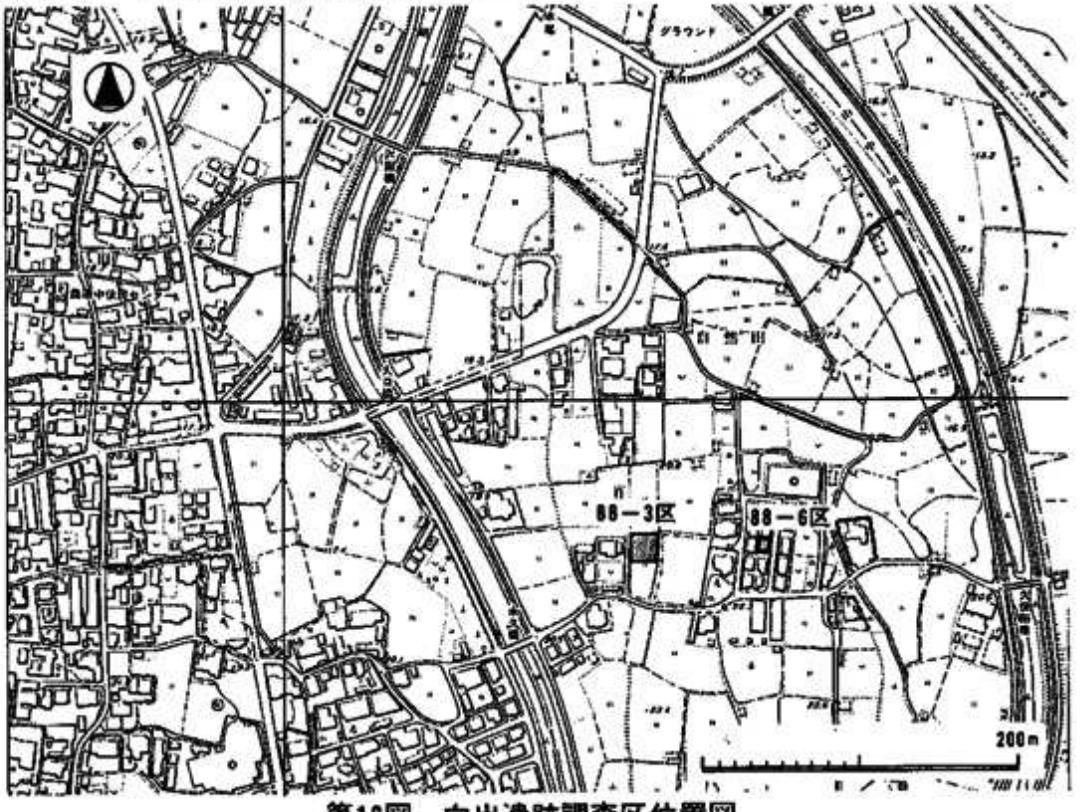
（第17・18・19図、図版6）

向出遺跡は、尾崎自然田地区中央部に所在し、泉南市との境界である男里川支流の菟砥川と山中川に囲まれた段丘に位置する。今年度、民間の開発工事により確認された遺跡である。縄文時代晩期と思われる土器片やサヌカイト製石鏃などが多く採集されている。

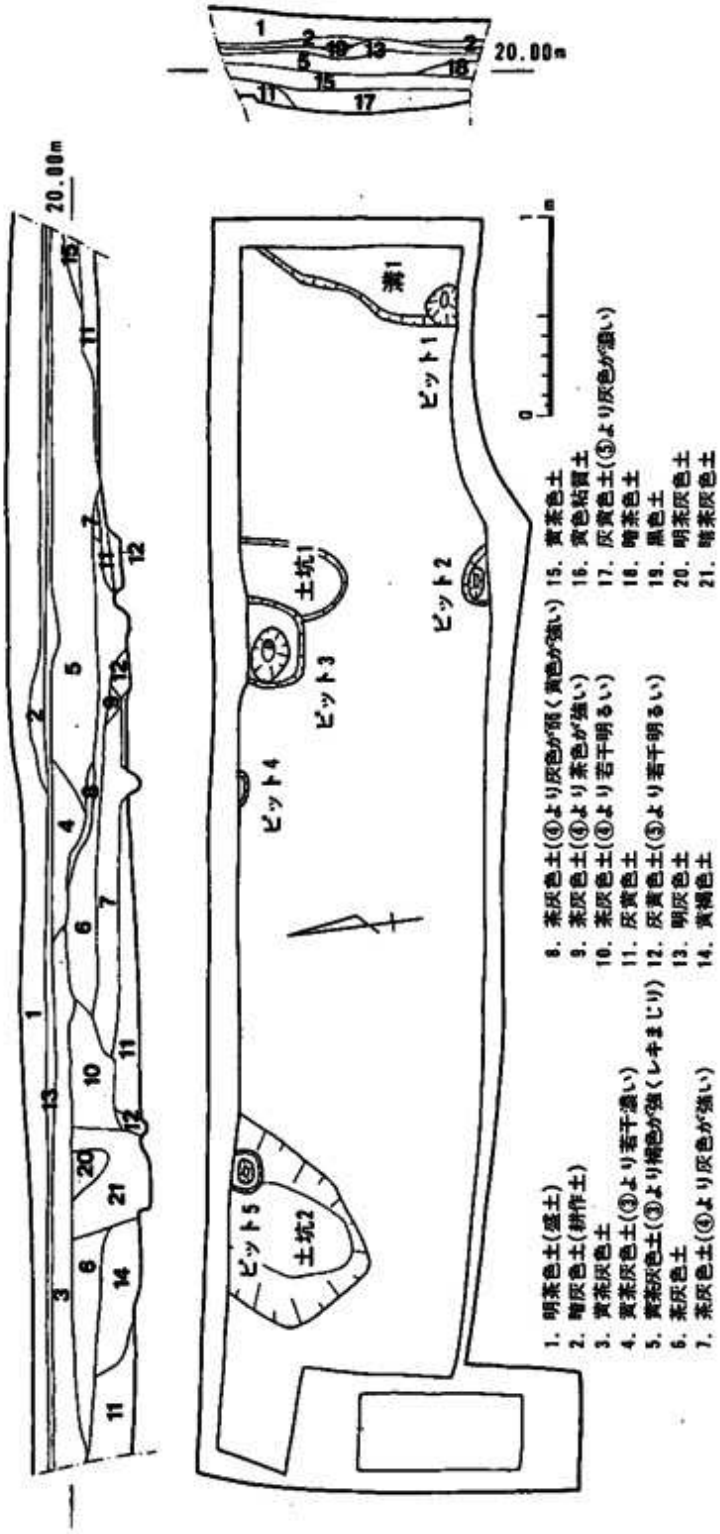


第17図　向出遺跡88-3区　トレンチ位置図

今回の調査は、個人住宅建設に先立つ事前調査である。本遺跡のほぼ中央部に位置する。対象地に1.5m×6mのトレンチを設定し、盛土を機械で除去した後、以下の層を人力で掘削をおこなった。



第18図　向出遺跡調査区位置図



第19図　向出遺跡88-3区　トレンチ平面図・断面図

2．基本的層序（第19図）

盛土以下の層位は、順に第1層暗灰色土（耕作土）第2層明灰色土、第3層黄茶灰色土、第4層茶灰色土第5層灰黄色土であった。

第2層から須恵器の坏蓋・土師質の素焼の甕などが、第3層から土師質の鉢と丸瓦・平瓦等が出土している。また、一部で第3層の下層となっている暗茶色土層からは備前の壷が出土した。

3．遺構（第19図、図版6）

トレンチ東側に溝1条、および、ピット数個と土坑2ケ所を検出した。

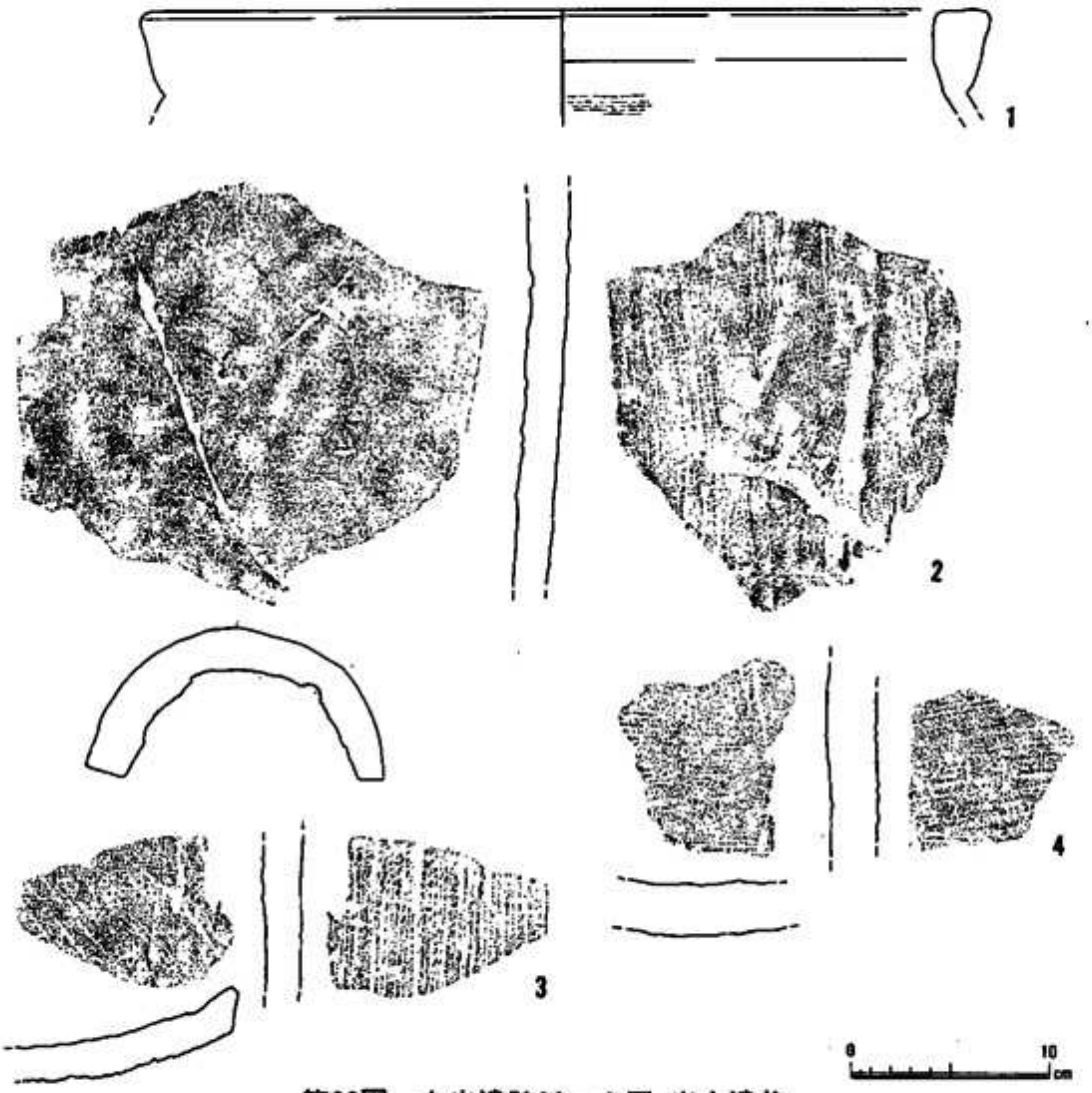
溝は、深さ約7.6cmを測る。含土は第5層であり、瓦質土器、須恵器片が出土している。ピットは、径約10〜15cm、深さ約20〜35cmのものである。土坑1、2は、各深さ7cm、28cmを測る。調査面積に制限があるため、これらの遺構にまとまりを見い出すことはできなかった。　（西畑）

4．遺物（第20図、図版７）

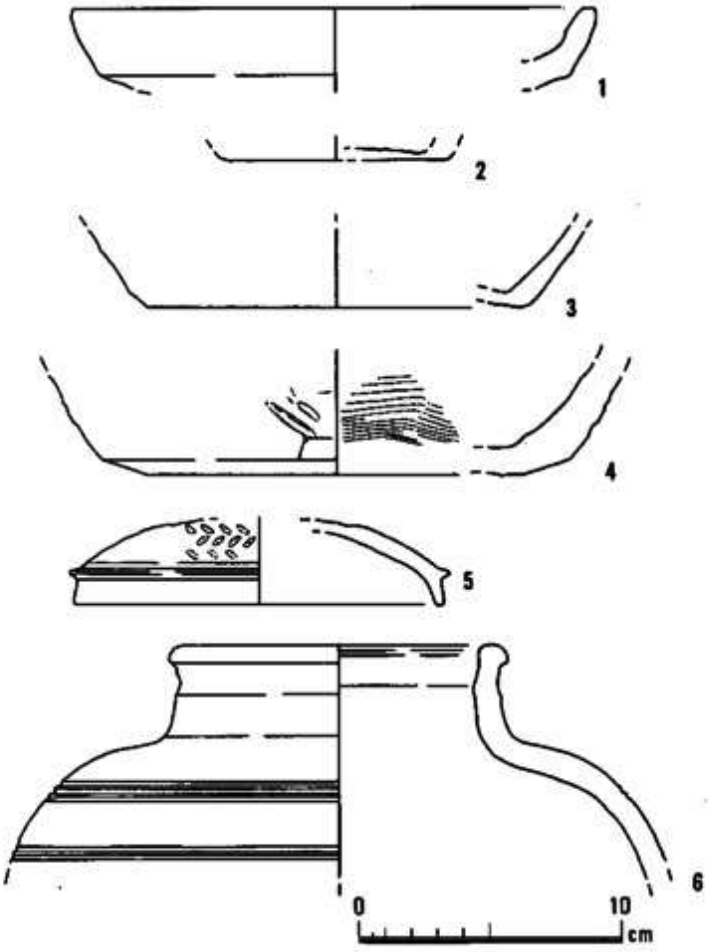
１は土師質湊焼の甕の口縁部である。外面の調整は磨滅のため不明であるが口縁部内面上方はヨコナデ、中央部はハケ後ナデ、下方にはハケ目調整がみとめられる。２～４は中世期のものと思われる瓦である。２は丸瓦で凹面には布目、凸面にはヘラ調整が施されている。３、４は平瓦で、３の凹面には布目およびヘラ状工具による調整、凸面には縄タタキ痕がみとめられる。４の凹面および凸面にはタタキ調整が施されている。

（第21図、図版７）

１は土師質の炮烙と思われる。外面にはヨコナデ調整がみられ、内外面とも



第20図　向出遺跡88－３区 出土遺物



第21図　向出遺跡88-3区 出土遺物

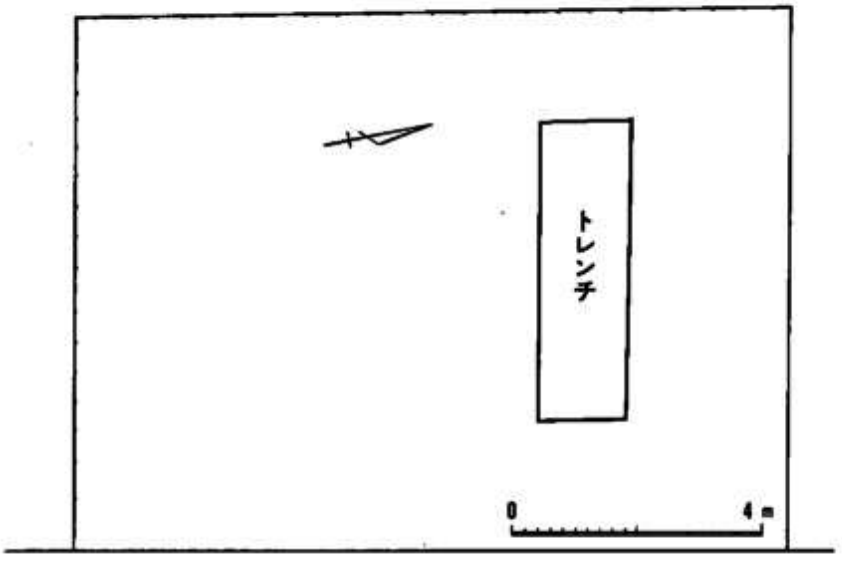
二次焼成をうけている。2～4は土師器、土師質の壺あるいは甕の底部と思われる。4の外面はヘラ削り、内面にはハケ目調整が施されている。5は須恵器の坏蓋で内外面にヨコナデがみられ、稜は貼り付けによるものと思われる。6は備前焼の壺と思われる。内外面にヨコナデ調整が施され、体部には回転させながら描いたと思われる櫛描き文が施されており、単位は3本である。また口縁部から体部にかけて自然釉がみられる。

（井上）

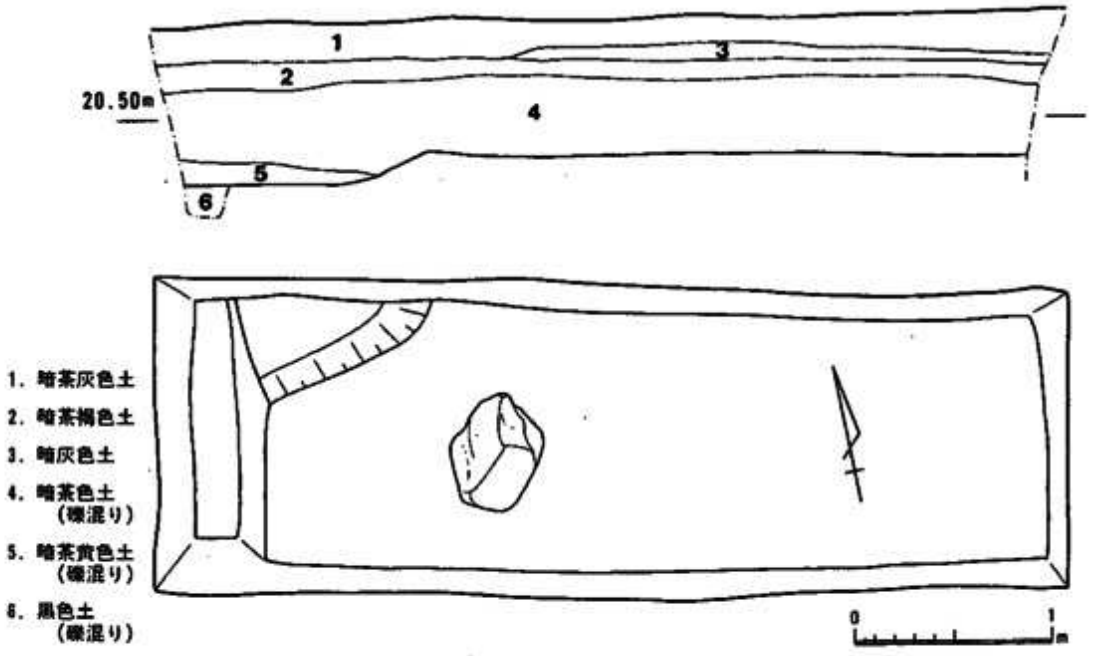
88－6区

1．位置および調査の概略（第18・22・23図、図版7）

本調査は、個人住宅建築に伴い実施した調査である。調査区は向出遺跡のほぼ中央部に位置している。遺跡内では前述



第22図　向出遺跡88－6区 トレンチ位置図



第23図　向出遺跡88－6区 トレンチ　平面図・北側断面図

したように、石鏃等が多く採集されており、当時における遺構の存在が予想されていた。調査は、調査地北よりに1.5m×4.7mのトレンチを設定し、人力で掘削を行い実施した。基本的な層序は以下に示すとおりであるが、第2・3層から土師質土器、瓦片等が出土した。トレンチの北西端で溝状の落ち込みを検出した。

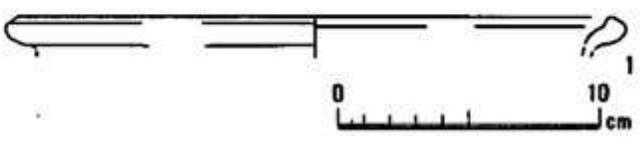
2．基本的層序

基本層序は第1層暗茶色土、第2層暗茶褐色土、第3層暗灰色土、第4層暗茶色土の順であった。　（三好）

3．遺物

実測可能な遺物は1点だけであった。土師質の壷の口縁部である。内外面ともかなり摩耗しているため、調整は不明である。

（井上）



第24図　向出遺跡88－6区 出土遺物

第4章　まとめ

以上のように今年度の調査の概略を表した。

今年度の調査での大きな成果といえば、昨年度に実施した分布調査により遺構の存在が大きいとされていた地域―向出遺跡、馬川遺跡―で発掘調査が実施され、各調査において遺構、遺物が検出されたことである。向出遺跡では、2件の調査がなされ、88－3区では、土坑、ピット等がまとまりをみせないながらも検出され、須恵器をはじめとする遺物がかなり出土した。しかし、分布調査により採集されていた石鏃等に伴う遺構は、検出されなかった。今後、周辺での調査により検出されるものと思われる。馬川遺跡では、88－2区で土坑、溝等が検出された。民間の開発工事に伴い調査を実施した88－1区では、溝を検出した他、サヌカイト片が出土しており、この付近に当時における集落の存在が予想される。

一方、田山遺跡は以前から調査が実施されていた遺跡である。今年度の調査においてもこれまでとはほぼ同様の結果が得られた。

このように、今年度は新しく周知された遺跡でかなりの成果をあげることができた。文化財保護法に基づく土木工事等の届出（通知）件数は、今年度約50件であった。周知の遺跡内における大規模な開発は減少したが、個人住宅等の件数が増加したのが今年度の特徴である。阪南町を含む泉州地域は、今後も開発行為が増える傾向にあると思われ、それに伴う埋蔵文化財の調査件数も比例して増加するものと予想される。こうした調査という記録保存も重要であるが、今後は調査だけでなく、文化財の活用、啓発という点にも行政はとり組むべきであると考える。

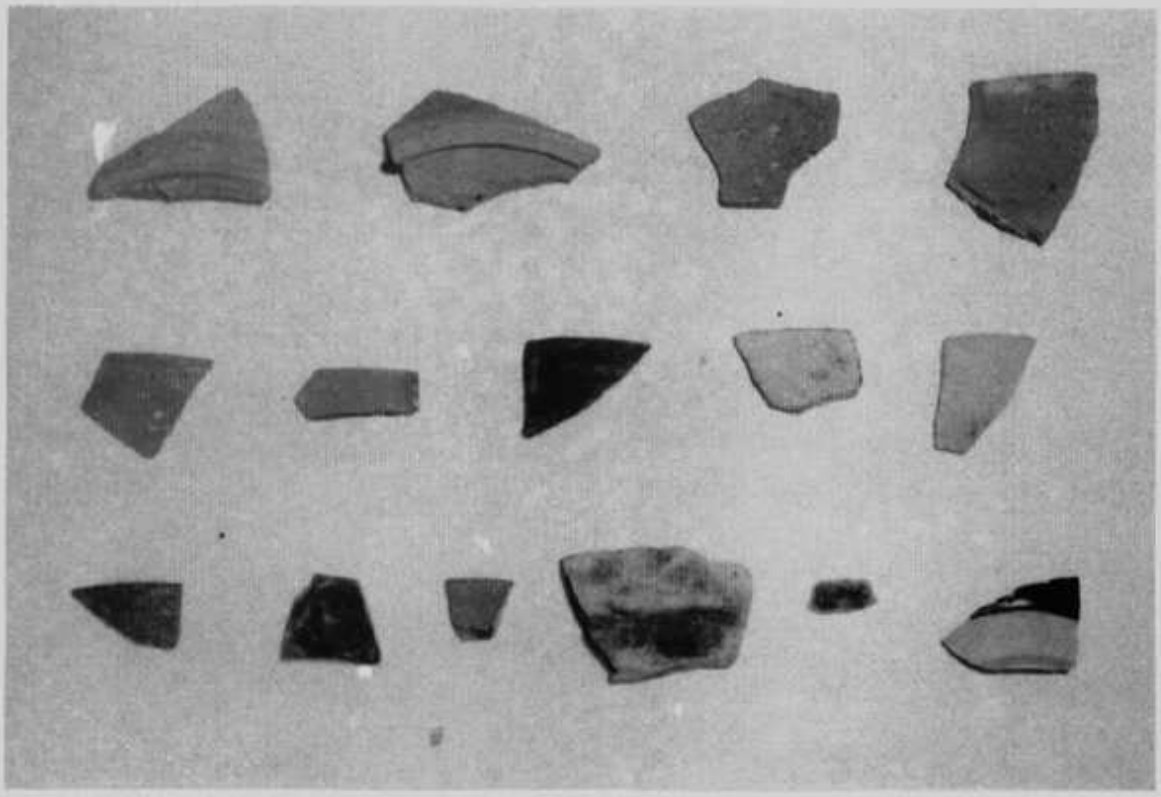
最後に調査に御協力を下さった土地所有者や関係各位に深く感謝するとともに、今後の文化財の保存、保護、活用にも御協力をお願いする次第です。また調査にあたり、指導を賜った大阪府ならびに泉北、泉南の各市町教育委員会の方々、調査に参加していただいた奥村恭子、和田旬世、井上祥子、坂井眞弓、東　公美、西畑昭男、福井正俊、高梨　裕、上野幸代、桑野美穂の諸氏にも感謝いたします。

（三好）

図　　版

図版1　田山遺跡88－1区　調査区全景・出土遺物

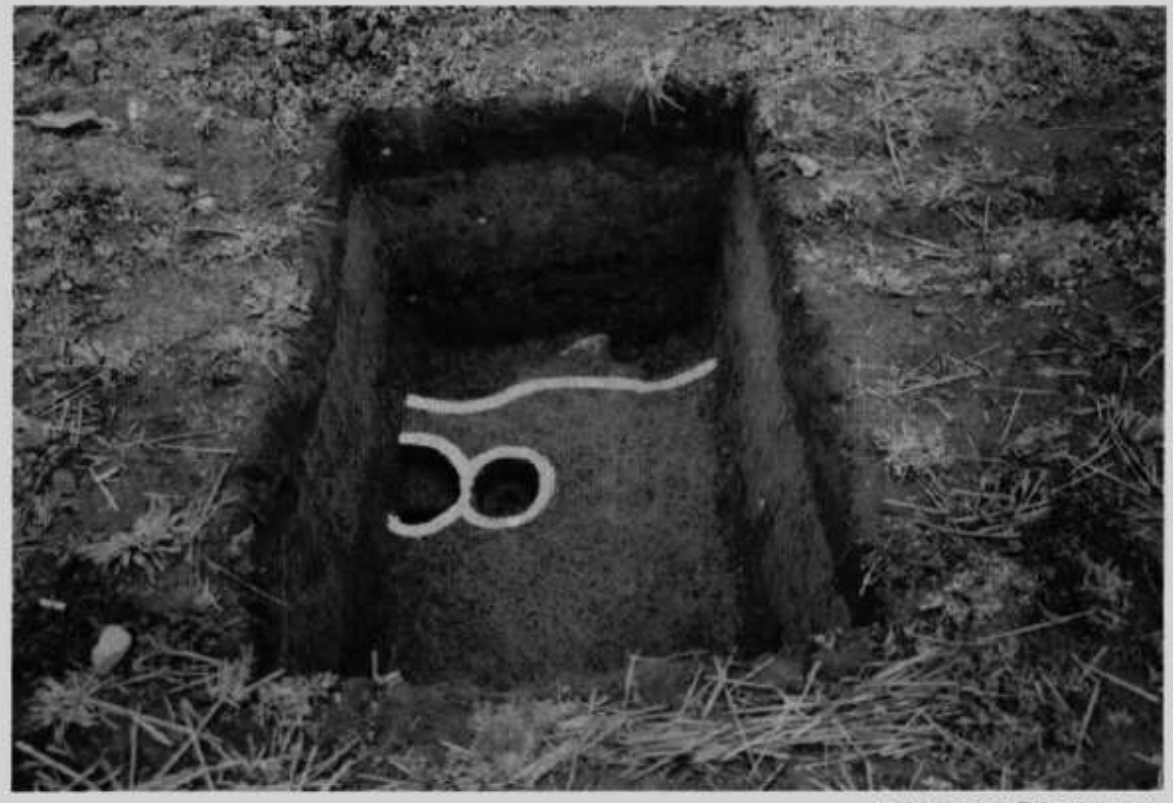
調査区全景(西より)



出土遺物

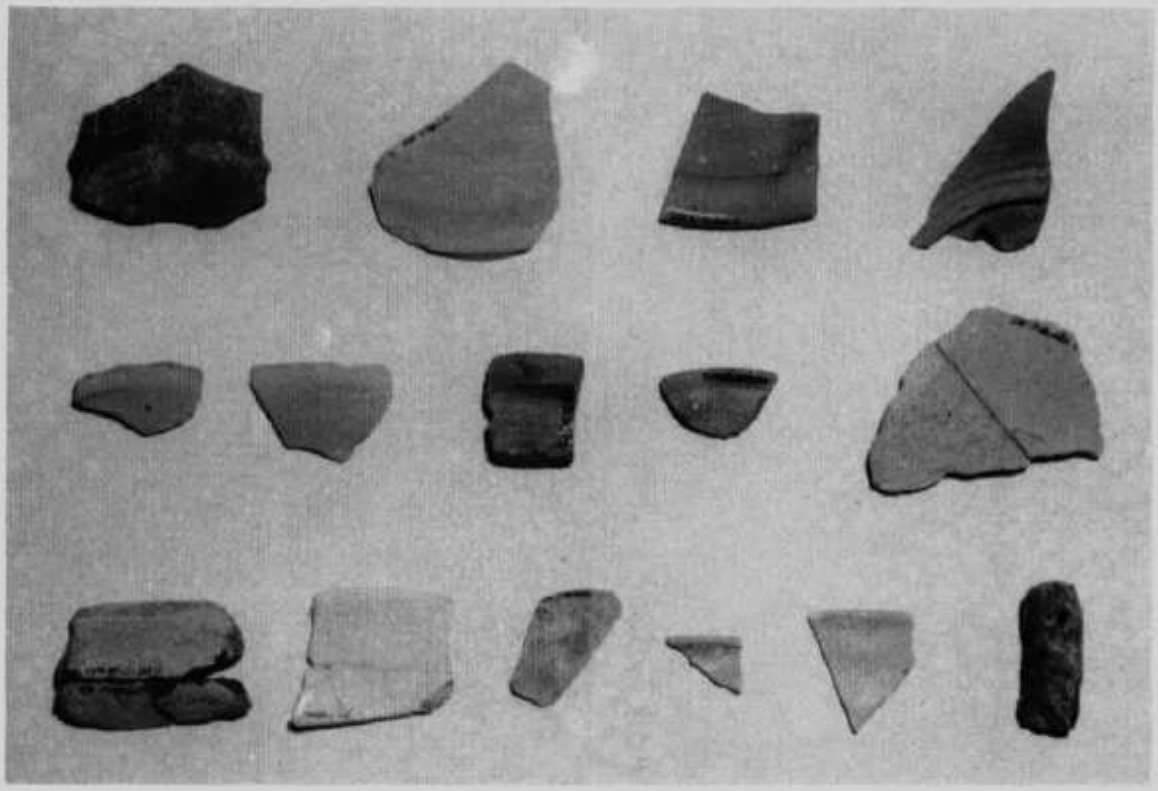
図版2 田山遺跡88－2区 Aトレンチ全景・Bトレンチ全景

Aトレンチ全景(南東より)



Bトレンチ全景(北東より)

図版3 田山遺跡88－2区 出土遺物・平野寺(長楽寺)跡 調査区全景



出土遺物

調査区全景(南東より)

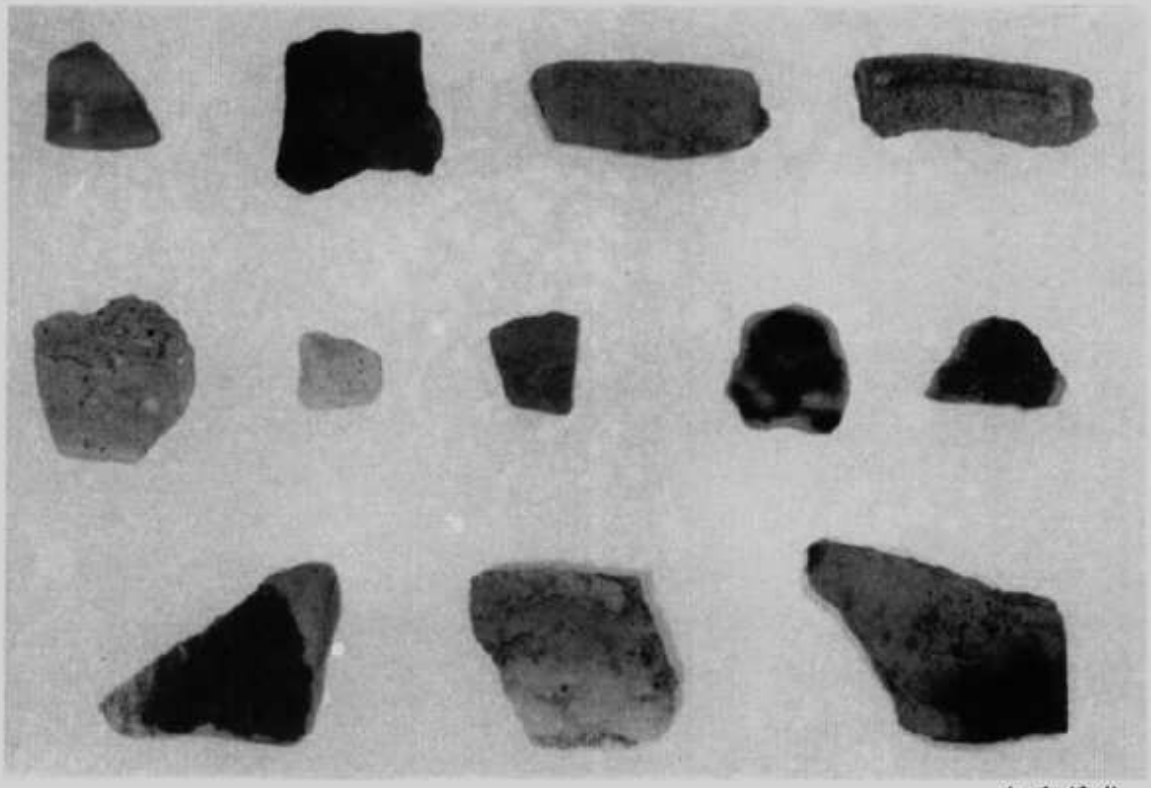
図版4 馬川遺跡88－2区 Aトレンチ全景・遺構

Aトレンチ全景(南より)

溝1の断面

図版5 馬川遺跡88－2区 Bトレンチ全景・出土遺物

Bトレンチ(東より)



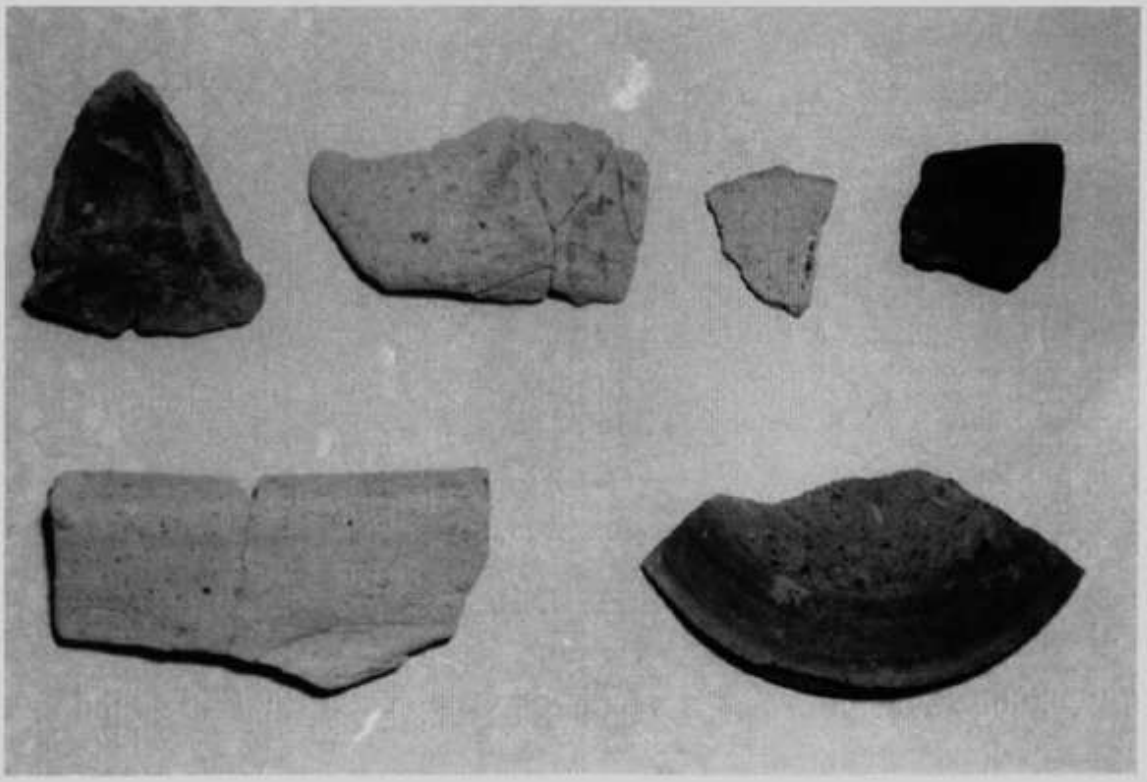
出土遺物

図版6　向出遺跡88－3区　調査区全景・遺構

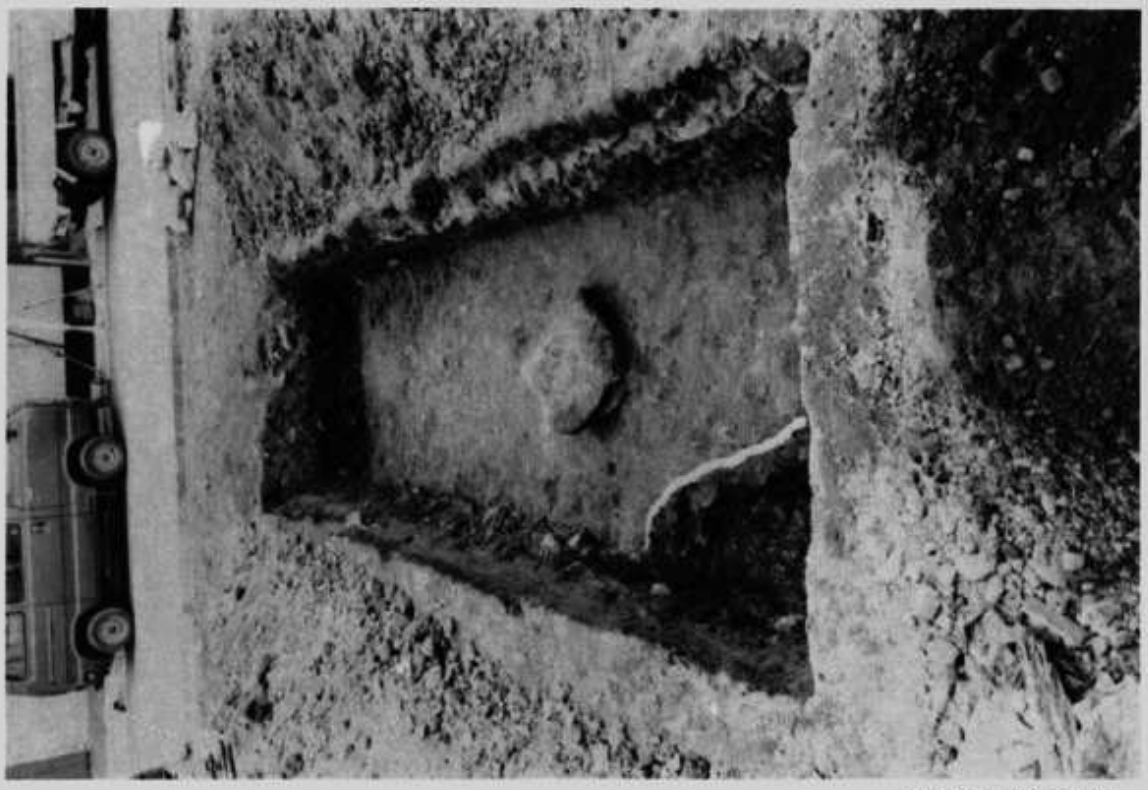
調査区全景(東より)

土坑2、ピット5(西より)

図版7　向出遺跡88－3区　出土遺物・向出遺跡88－6区　調査区全景



出土遺物



調査区全景(西より)

阪南町埋蔵文化財報告Ⅶ

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要Ⅲ

平成元年３月

発　行：阪南町教育委員会社会教育課
大阪府泉南郡阪南町尾崎町35の１

印刷者：有限会社山村印刷所
貝塚市近木１４８３の８